

4 成果

- (1) 単元テストを導入することで、学習の理解度を高めることができた。前年度より各教科のテスト実施希望日を調査し、年度初めにはテスト予定表を作成した。テストの予定表が年度初めにできていることで、各教科の年間指導計画通りに授業を進めようとする先生方の意識も高まった。
- (2) 立志ノートを記入することで日ごろの学習を振り返らせることができた。生徒会、学習委員会の生徒を中心に、提出状況をチェックし、記録ができていない生徒については、表彰をするなど生徒の意識を高める工夫をした。
- (3) 12月からはリソースルームで、授業内容の理解に遅れのある生徒に対し個別学習の場を設けることができた。学習支援員に協力をいただきながら、少人数で、集中できる学習環境づくりに取り組んだ。

5 課題

- (1) 単元テストの追試の機会（チャレンジタイム）を設けているが、追試を受けずに機会を逃している生徒がいる。今後は、教科担当からだけでなく、学級担任からも声をかけて生徒が進んで追試を受けるような環境づくりが必要である。
- (2) 立志ノートの活用についても、生徒の取り組みに差がある。
今後は、立志ノートを活用している生徒の取り組みの紹介などと合わせて、学級担任からの声かけを継続する必要がある。
- (3) 生徒の端末（タブレット）の活用があまり進んでいない。今後は、授業でのタブレットの活用を先生方に計画的に取り組んでいただく必要がある。具体的には授業の振り返りの場面においての活用を促進する。単元テストの出題もタブレットドリルの問題を活用することで、タブレットドリルに取り組むことが、テスト対策になるような取り組みが必要である。